

浜中町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

浜中町では、釧路市まで運行している霧多布線において、厚岸線～浜中町間の利用者が大幅に減少しており、当該区間を継続して運行していくことが困難になっていることに加え、町内農村部を運行する町内巡回バスの利用者が特定少数となっているなど、町内公共交通網の効率化・合理化が求められていた。そこで、平成30年度から町民を対象とした生活交通に係るアンケート調査や町内公共交通の利用実態調査、町民との意見交換を実施し、町内公共交通網のあり方について検討を行い、令和2年5月に「浜中町地域公共交通網形成計画」を策定し、JR花咲線や都市間バス、霧多布厚岸線と連携した広域生活移動の支援、町内公共交通の利便性向上に資する公共交通網の構築、町民や観光客などを対象とした鉄道も含めた公共交通の利用を促す利用促進策の展開を基本方針として、町民の生活交通確保に努めることを目的とした。

この基本方針に基づき、町内公共交通網を構築すべく、地域公共交通確保維持事業として霧多布湿原線、茶内線及び浜中線を新たに運行することにより、町民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。

生活交通確保維持改善計画の目標

令和7年 霧多布湿原線利用者数 目標値 3,450人
茶内線・浜中線利用者数(予約型運行) 目標値 950人

車両減価償却費補助については、上記茶内線・浜中線に同じ

町内交通運行に係る本町の負担改善割合
令和元年度負担額28,960千円を「1.0」とした場合 目標値 「0.9」

令和7年度事業概要

- 霧多布市街地と茶内駅を結ぶ町営バスの運行
霧多布湿原線(霧多布温泉ゆうゆ～湿原センター～茶内駅)
霧多布湿原線系統1(霧多布温泉ゆうゆ～湿原センター～茶内旭～セイコーマート～茶内駅)
霧多布湿原線系統2(霧多布温泉ゆうゆ～浜中町役場前～湿原センター～茶内旭～セイコーマート～茶内駅)
- 茶内地区と茶内駅を結ぶデマンドバスの運行
茶内線(茶内駅～茶内西～西円朱別～円朱別～茶内東～茶内駅)
- 浜中地区と霧多布市街地を結ぶデマンドバスの運行
浜中線(浜中駅～熊牛～姉別～厚陽～貫人～奔幌戸～霧多布温泉ゆうゆ)

地域公共交通の現況

- 町営バス【定時定路線】
霧多布湿原線(2路線)、霧多布散布線(1路線)、霧多布厚岸線(1路線)
- 町営バス【区域運行】
茶内線(1路線)、浜中線(1路線)
- スクールバス(13路線)
- 貸切バス(1社＝株式会社浜中運輸)
- タクシー(1社＝霧多布中央ハイヤー株式会社)
- JR花咲線(茶内駅、浜中駅、姉別駅)
- 都市間バス「特急ねむろ号」(1路線)

協議会開催状況

- | | |
|------------|--|
| 令和7年1月1日 | 令和6年度第3回協議会 開催 |
| 主な協議事項 | 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について |
| 令和6年6月27日 | 令和7年度第1回協議会 開催(書面開催) |
| 主な協議事項 | 令和6年度事業報告
令和8補助年度浜中町地域公共交通網形成計画(案)について |
| 令和7年12月19日 | 令和7年度第2回協議会 開催(書面開催) |
| 主な協議事項 | 浜中町地域公共交通活性化協議会規約の一部改正について |
| 令和8年1月13日 | 令和7年度第3回協議会 開催 |
| 主な協議事項 | 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について
浜中町地域公共交通計画(案)について |

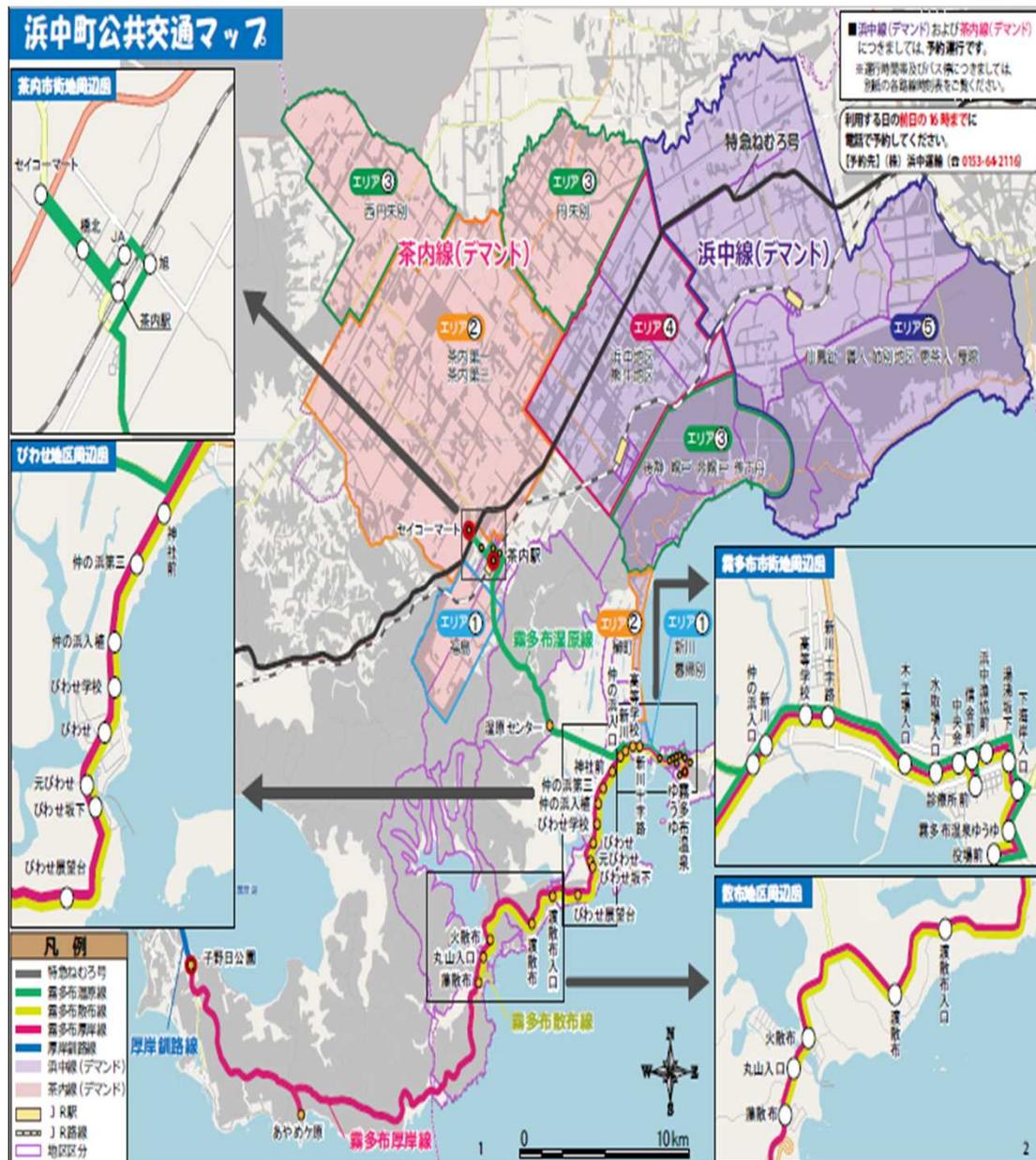
令和7年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

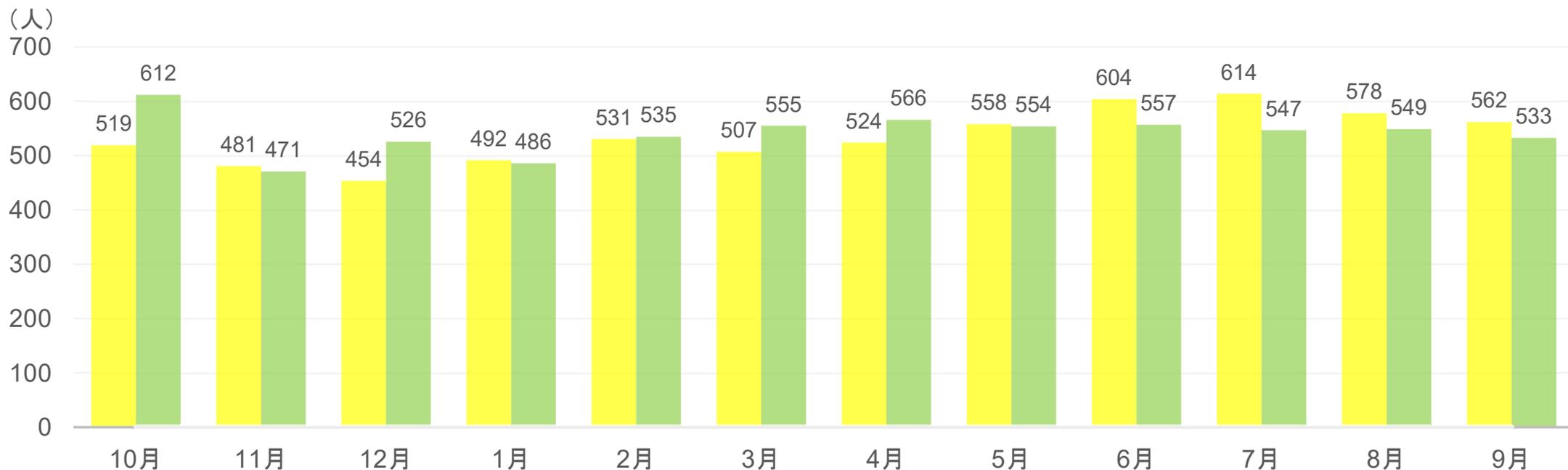
・プロセス

- ①平成30年度から町民を対象とした生活交通に係るアンケート調査・町内公共交通の利用実態調査、町民との意見交換を実施し、町内公共交通のあり方を検討。
 - ②令和元年度に町内公共交通網に関する実証運行を実施。
 - ③令和2年に「浜中町地域公共交通網形成計画」を策定。
 - ④令和2年10月から霧多布湿原線・茶内線・浜中線の本格運行・創意工夫
- ①町民や観光客などにも分かりやすい町内公共マップの作成・全戸配布・町ホームページ掲載

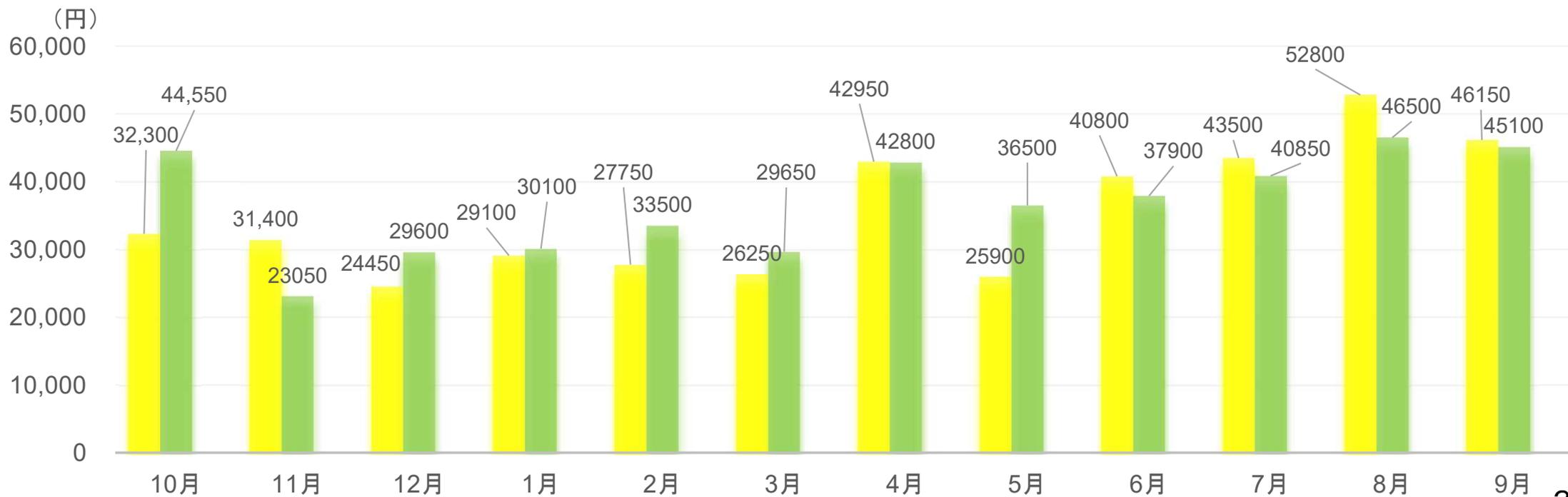
2) 運行系統



● 利用実績 ■ R6:6,424人 ■ R7:6,491人



● 収入実績 ■ R6:423,350円 ■ R7:440,100円



5) 事業実施の適切性

概ね計画どおり実施された

6) 目標・効果達成状況

霧多布湿原線については、利用者数目標値3,450人に対して5,412人の実績があった。予約運行型の茶内線・浜中線については利用者数目標値950人に対して1,079人の実績があった。いずれも、「浜中町公共交通マップ/時刻表・運賃表」の配布や他公共交通機関との接続を継続したことで、町営バスの利用方法や利便性について利用者の理解が進んだことが目標値を大幅に上回った理由と考えられる。

町内交通運行に係る本町の経費負担については、バス運行事業者への委託料が28,195千円となっており、令和元年度の負担経費28,960千円に対して97.3%となっている。物価高騰や人件費の増加の影響が見られるなか本町負担額の改善に努めている。

7) 事業の今後の改善点

- 「浜中町公共交通マップ/時刻表・運賃表」の改善と内容の周知を継続し、利用促進に努める。
- JR北海道や根室交通と連携を深め、確実な接続を図るなど、町内外への移動における利便性の向上について検討していく。
- 町民からの要望は、可能な範囲で対応し、観光客からの意見等についても参考としていく。
- 破損又は老朽化しているバス停留所については、更新を進めていく。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・利用者数の目標は上回っており、今後も地域公共交通計画に基づき、利用促進策の取組を継続することを期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。